

環境に配慮した活動

環境に配慮したサプライチェーンマネジメント

事例： 合同生産説明会の開催

2010年4月、当社の太田工場（群馬県太田市）及びガスタービン工場（新潟県北蒲原郡聖籠町）にて、調達センターと生産センター合同で『第1回合同生産説明会』を開催致しました。北は岩手県、南は福岡県より、両会場合わせて 253 社、286 名の購買先様に御参集頂きました。生産計画などの説明と合わせて優良購買先様の表彰も行いました。

説明内容

- ①弊社を取り巻く環境について
- ②生産計画の概要と見通し
- ③短納期受注対応へのお願い
- ④不適合撲滅へのお願い

今回は初めて2センターで連携して合同生産説明会を開催し、情報を公開する事で、生産の効率化及びムダの排除に役立てて頂ければと考えています。会場も今までと違い実際の生産工場で行った事から、当社の状況や説明内容をより良くご理解頂けた事と思います。



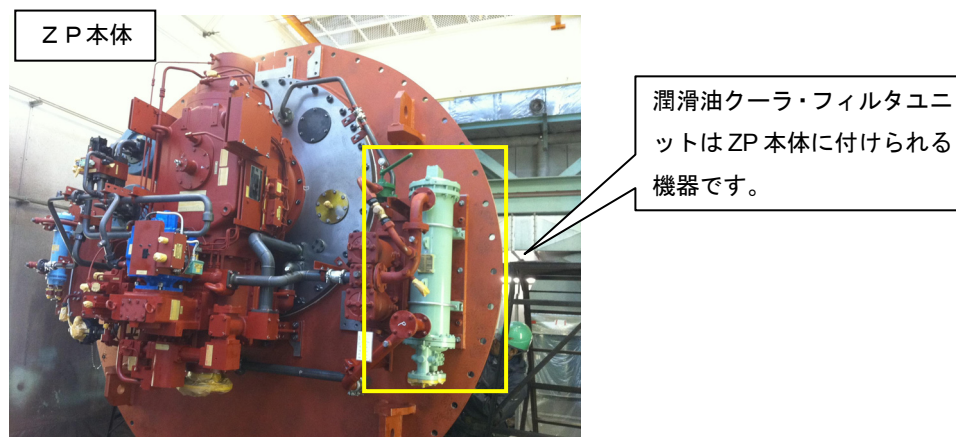
太田工場（2010年4月）



ガスタービン工場（2010年4月）

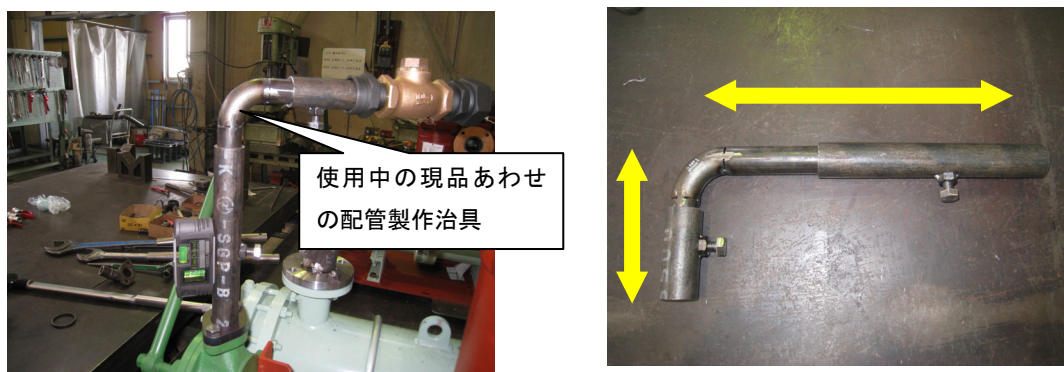
事例： 購買先における不適合削減活動

新潟原動機では社内不適合はもとより、購買品の不適合「0」を目指して、購買先毎に調達センター、生産センター、品質保証室でチームを組んで品質向上のためのメーカー指導の活動をしています。今回は、潤滑油クーラ・フィルタユニット製作協力会社殿と共同で進めている改善事例を紹介致します。



潤滑油クーラ・フィルタユニットは、潤滑油クーラ・フィルタ・ポンプなどの機器を配管でつないでユニットに組立てします。ところがそれぞれの製品に製作誤差があり、どうしても一部の配管を現品に合わせ製作する必要があります。この現品にあわせて製作した配管の品質が悪いと、油漏れなどの不適合となります。したがって、この配管を正確で品質の良いものにすることが、大切なポイントとなります。

今回協力会社殿と議論を重ね、この配管を正確に作る治具（物を作るときに位置決め用の道具）を同社のアイディアで作成しました。今までは、一つのユニットを製作するのに2～3回、現品での合せ作業が必要でした。しかも正確に作れずに油漏れも起こしていましたが、この治具の活用により、1回で現品にマッチした配管を正確に作るできるようになりました。



また、本機器の製作手順に従って第1工程から最終工程まで各作業の見直しを進め、より確かな作業を安全に間違いなく実施する手順を決め、要領書・チェックシートに反映する予定です。

「確かな作業でいつも不適合は0」を目指します。